

Offers デジタル人材総研

マネジメント層が抱える ソフトウェア開発組織の課題

77.6%が開発組織の生産性を計測できていないという回答

2023.02.01



はじめに

近年コロナ禍によってリモートワークが普及し、働き方が多様化したことで働きやすくなりました。

一方、マネジメントを担当されている方は、メンバーの動きやコンディションが見えにくく課題を感じている方も多いのではないのでしょうか。

そこで本調査を通して、マネジメントの実態を明らかにし、これからこういった手法が必要なのか、開発組織のマネジメント課題の解決へと導くヒントにしたいと考えております。

目次

調査概要 04

サマリ 05

回答者属性 06

副業経験 10

副業実態 16

調査概要

以下の目的、方法でアンケートを実施しました。

調査目的	マネジメント層が抱えるソフトウェア開発組織の課題
調査方法	インターネット上でのアンケート実施
調査対象	調査対象: 下記の条件に合致した58名 ・Offers登録者 ・プロダクト開発組織のマネジメントに関わる方 (CEO、VPoE、CTO、EMなど)
調査期間	2023年 1月中旬

※小数点第二位以下を四捨五入してグラフを作成

サマリ

- **マネジメント課題※**を感じているという回答が**44.9%**
- **77.6%**が開発組織の**生産性を計測できていない**という回答
- すでに計測している測定指標のうち「**売上や粗利益額**」または、「**デプロイ頻度 (Four Keys)**」での測定が最も多く**39.3%**
- **エンゲージメントを計測していない**という回答が**53.4%**

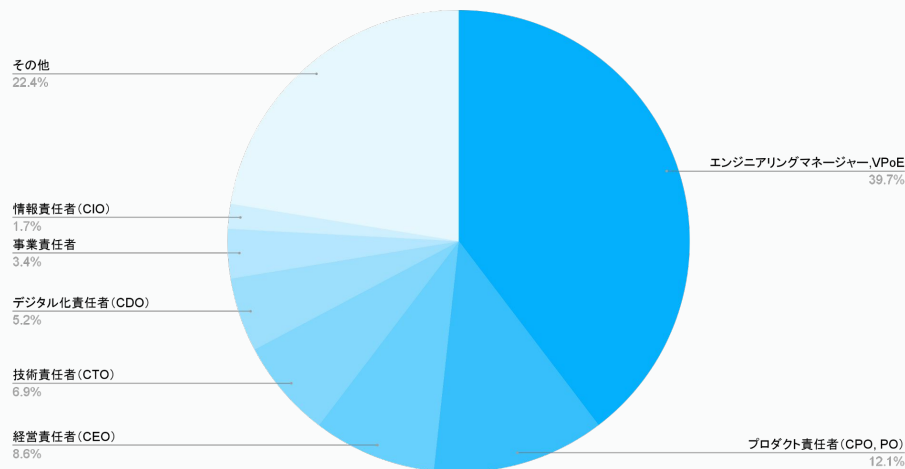
※プロジェクトマネジメントまたは、ピープルマネジメントにおける課題を指します

回答者属性

役割・役職

ご回答頂いた方々の役職は右図のようになります。

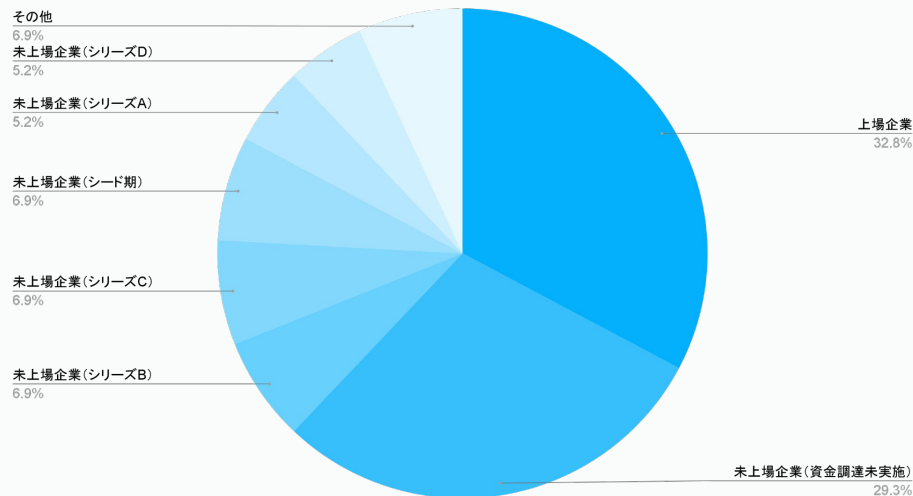
あなたの役割・役職について教えてください



在籍企業のフェーズ

ご回答頂いた方々の在籍企業のフェーズ
は右図のようになります。

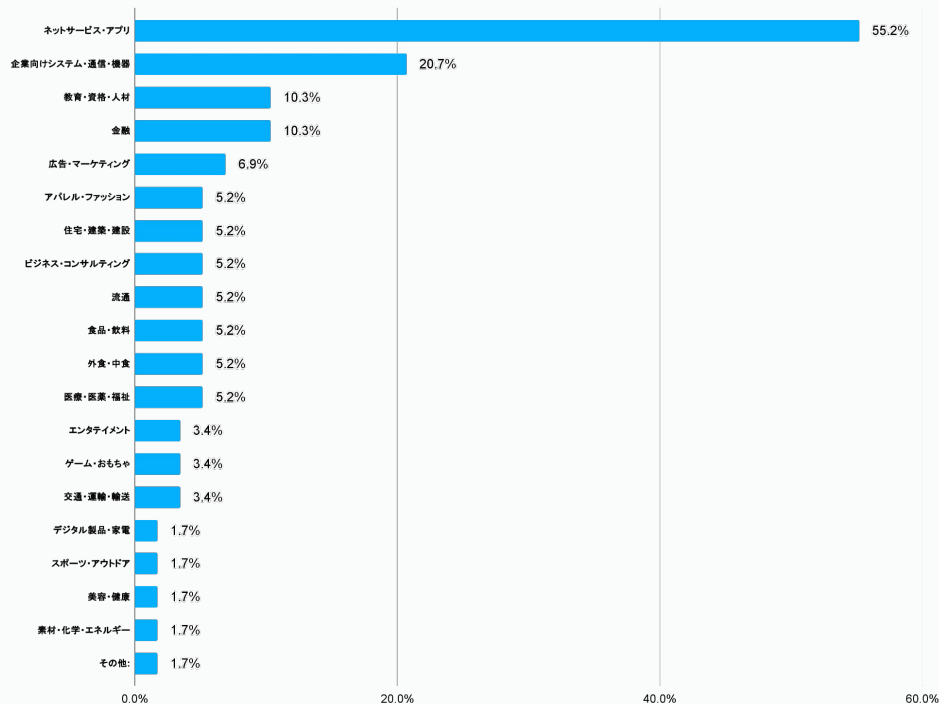
在籍企業のフェーズについてお答えください



在籍企業の業界

ご回答頂いた方々の在籍企業の業界は
右図のようになります。

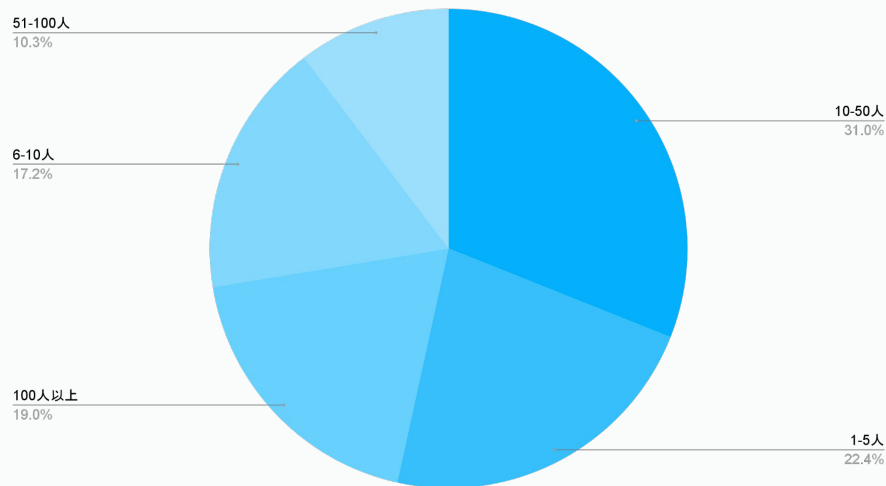
在籍企業の業界を教えてください



ソフトウェア開発組織の規模

ご回答頂いた方々のソフトウェア開発組織規模は右図のようになります。

ソフトウェア開発組織の規模について教えてください

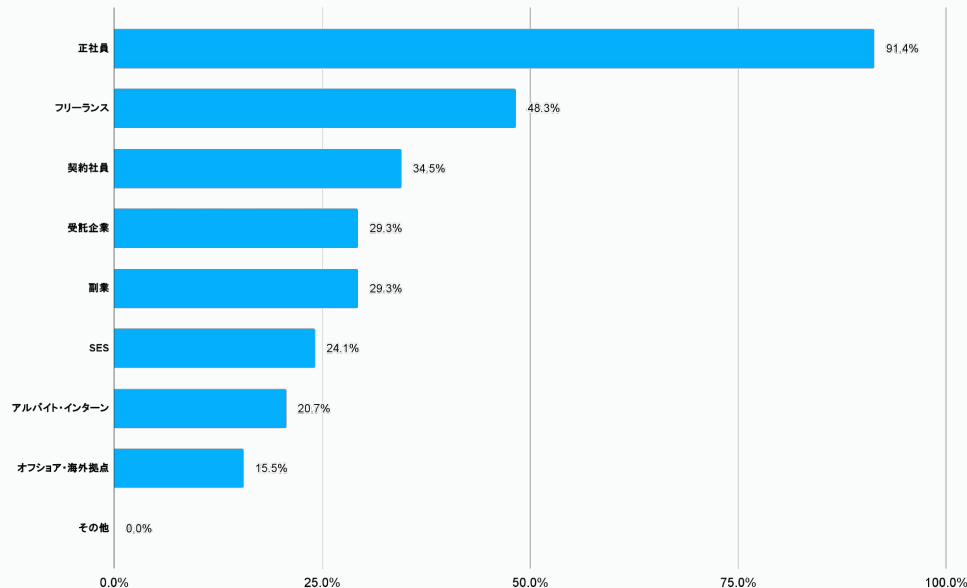


開発メンバーの内訳(複数回答可)

ご回答頂いた方々の開発メンバーの内訳は右図のようになります。

正社員(91%)に続き、**フリーランスが48%**という結果となりました。

開発メンバーにはどのような方が居ますか



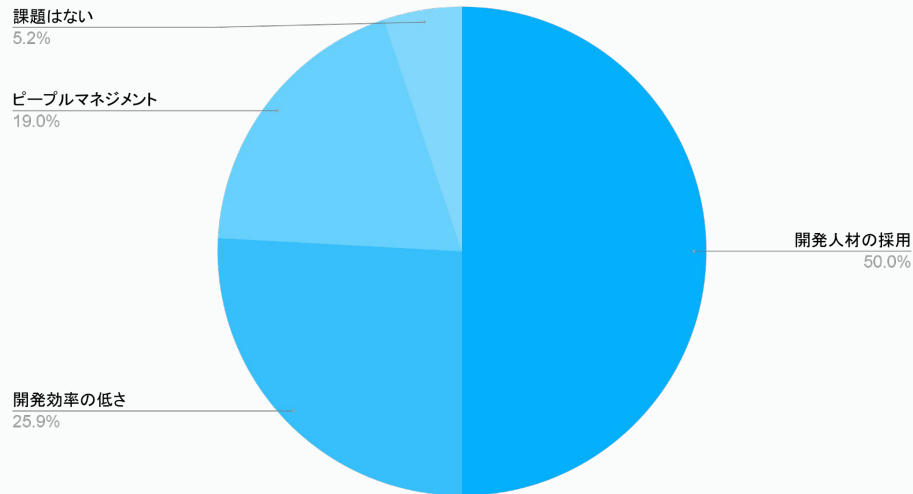
開発組織課題

現在最も感じている課題

開発人材の採用が50%という結果となりました。

ピープルマネジメント、開発効率といった
マネジメント課題を感じているという回答
が44.9%となりました。

現在最も感じている課題を教えてください。

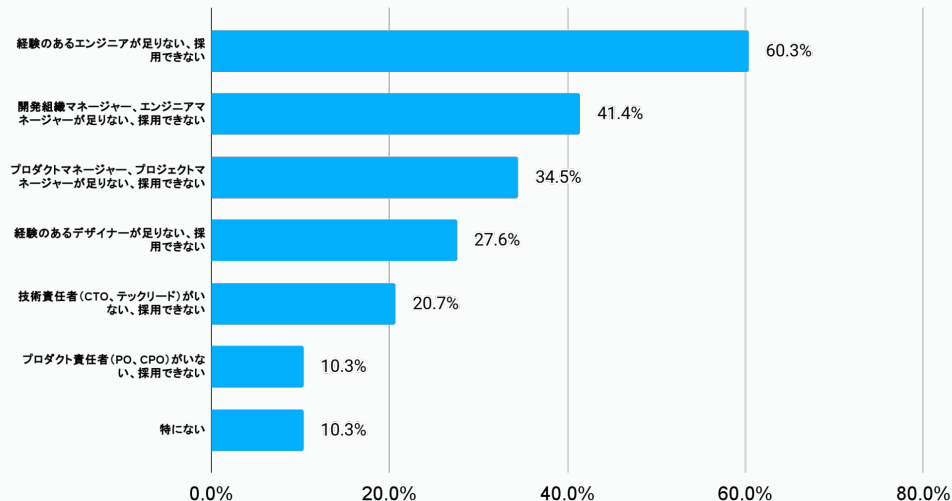


採用課題(複数回答可)

経験のあるエンジニア採用に課題があるという回答が60.3%となりました。

続いて開発組織マネージャー、エンジニアマネージャーが41.4%、プロダクトマネージャー、プロジェクトマネージャーが34.5%とマネジメント職の採用課題が続きました。

採用課題について教えてください

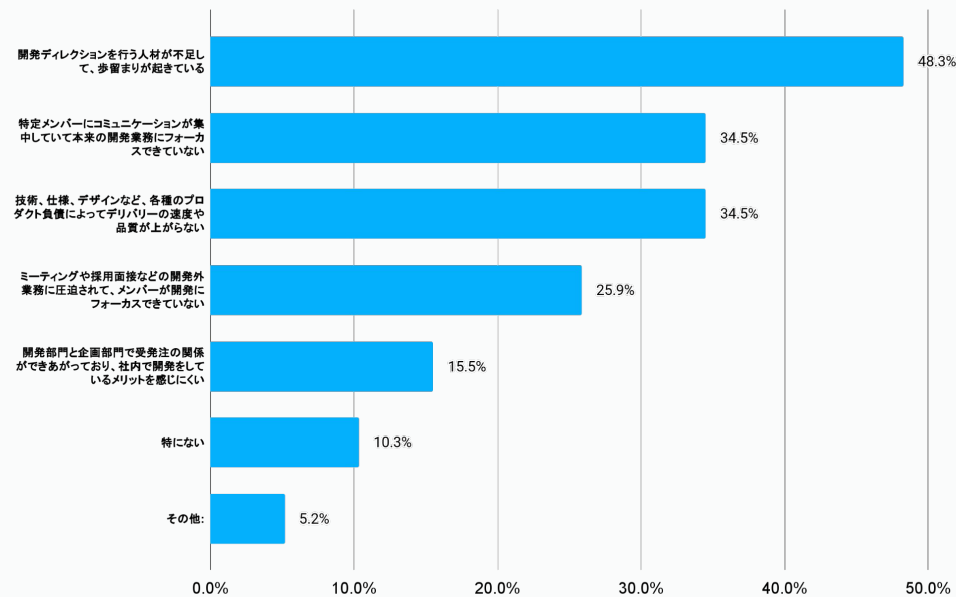


プロジェクトマネジメント関連の課題(複数回答可)

プロジェクトマネジメント関連の課題では、**開発ディレクションを行う人材が不足して、歩留まりが起きているというものが48.3%ありました。**

その他の回答には「開発プロセスが構築されていない」「システム開発という観点からのプロジェクト運営の文化が社内に少ない」といったものが寄せられました。

プロジェクトマネジメント関連の課題について教えてください

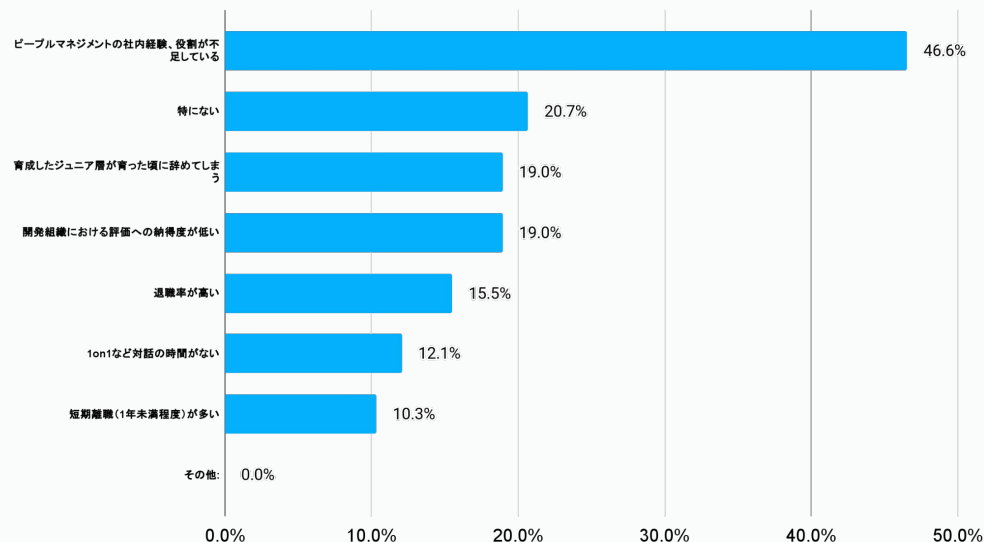


ピープルマネジメント関連の課題(複数回答可)

ピープルマネジメントの社内経験、役割の不足という回答が**46.6%**となりました。

続いて育成したジュニア層が育った頃に辞めてしまう(19.0%)、開発組織における評価への納得度が低い(19.0%)となりました。

ピープルマネジメント関連の課題について教えてください



開発生産性

開発組織の生産性指標についての取り組み

開発組織用の生産性指標が決まっています、計測もできているという回答は15.5%となりました。

生産性を計測できていないという回答は77.6%となりました。

開発組織の生産性指標について、どのように取り組んでいますか？

わからない・知らない

6.9%

開発組織用の指標が決まっています、計測もできている

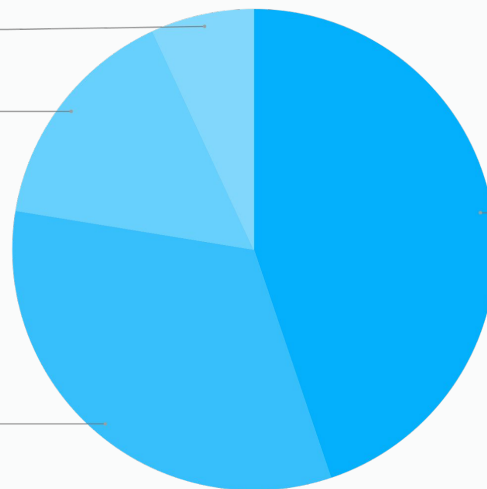
15.5%

開発組織用の指標は決まっているが、計測体制が整っていない

32.8%

開発組織用の指標が決まっておらず、計測できていない

44.8%



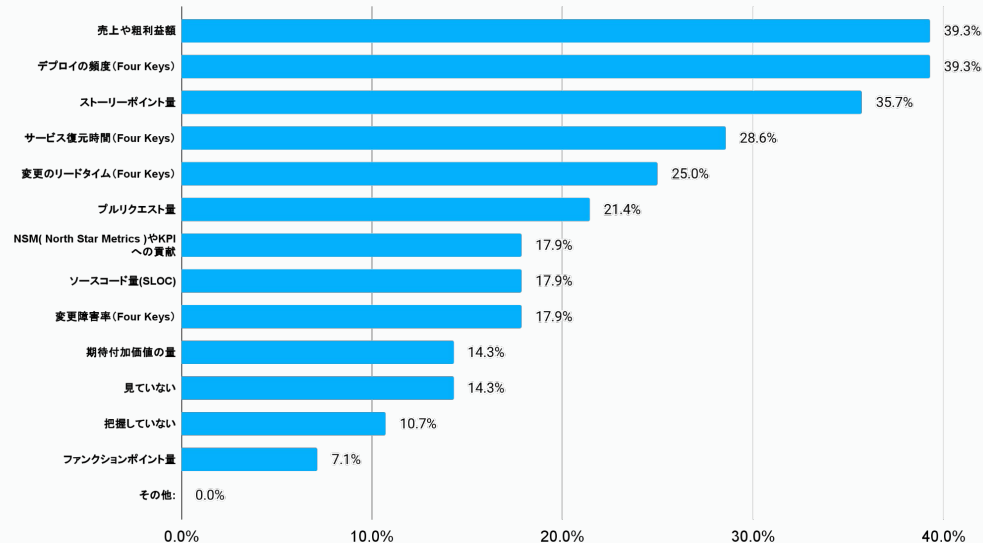
開発生産性の指標(複数回答可)

売上や粗利益額を開発生産性の指標としているという回答が**39.3%**となりました。

同率で**デプロイの頻度(Four Keys)**が続きます。

※ 開発生産性の指標への取り組みについて
「開発組織用の指標が決まっておらず、計測できていない」「開発組織用の指標は決まっているが、計測体制が整っていない」と回答した28名を対象に質問

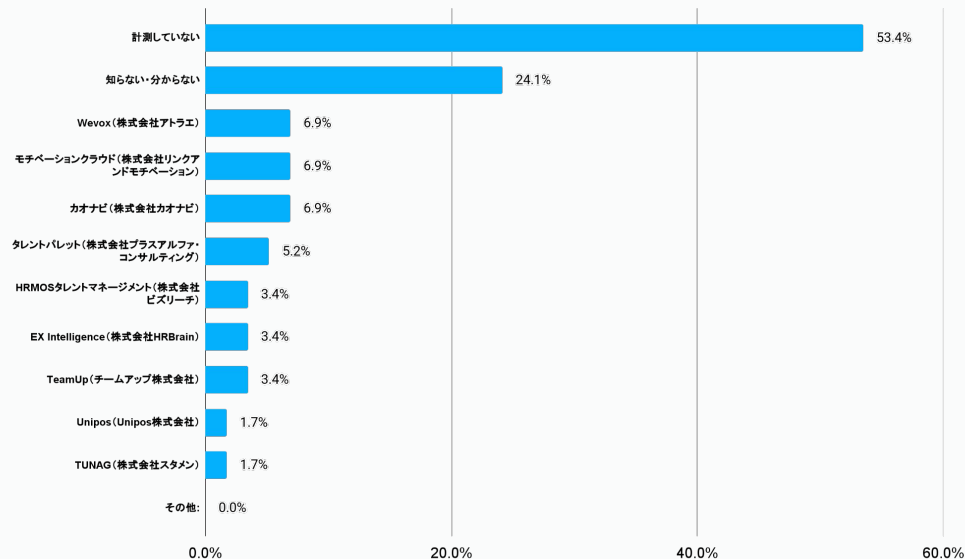
どういった開発生産性の指標を見ていますか？



エンゲージメントスコア計測サービスの活用(複数回答可)

エンゲージメントを計測していないという
回答が**53.4%**という結果となりました。

エンゲージメントスコア計測サービスを活用していますか？



Offers MGRへご興味をお持ちいただいた方はこちら

プロダクト開発組織の生産性を最大化する

Offers MGR



詳細はこちらから

<https://offers-mgr.com/lp>

- ・開発プロセス、開発組織の課題の確認
- ・開発組織、他チームでの活用事例

- ・チーム・個人のコンディション把握の方法
- ・業務委託の方に対して副業転職の推進方法

などを提案可能です

Offersへご興味をお持ちいただいた方はこちら

ITエンジニア/デザイナーの副業・転職サービス

Offers



詳細はこちらから

<https://offers.jp/client/lp>

- ・貴社採用要件に合致した候補者数の確認
- ・副業採用のイロハ

- ・貴社同規模、同業界企業さまでの採用成功事例
- ・Offersを活用した場合の採用スケジュール

などを提案可能です

Offers デジタル人材総研

マネジメント層が抱えるソフトウェア開発組織の課題

制作・編集: デジタル人材総研所長 久松剛